

假名體
八犬傳
第廿六編
文溪堂

曲亭十哲著
一勇斎國芳画



特別
~13
4271
50

下冊



特別
~13
4271
49

上冊



上冊

特別
~ 18
4271
49

八三
4271
79

かみり
い火傳

廿六編

曲多
一勇高岡芳也



上冊

91-2292

一 卅 五

本空ほんくう心こころ小こ板いた元もとのの勸すすふふよりより此この策さく子しをを抄せう録ろくししよりより又また思おもへへ
 磨こきき上あげあげあ玉たま川がわのの水みづをを産うぶ湯ゆふふ浴よくしし日ひ本ほんのの鱒ますをを朝あ夕ゆふ
 詠えいめめるる生せい育いくななるる花はなのの大おほ江え戸どのの小こ兒ご輩ばいハハ粹すいのの又また粹すい酸さんハハ甘あま以い毛も
 味あじのの策さく子しをを見みるる小こもも趣おもむ向むがが堅かた柔なやとと咬か分ぶん玉たま粹すいをを
 世よのの中ちゆう所ところへへ不ふ粹すいをを已お等とがが作さくをを性じやう惚とつとと出いさされれをを瞬ま息げのの間ま不ふ変へんるる
 流りゆう行ぎやう昨きのう日ひのの花はなハハ今いま日ひのの夢ゆめ然しかハハささりりああららうう衆しゆう位ゐのの陰かげふふりり
 春はる毎まい小こ緑りよくぞぞ増まるる松まつ一ひと木きかかららぬぬ色いろハハ此この策さく子し以い汲ひるる人ひと
 間まののああらら汲ひ見みるる耻はじじららるるああららうう及およばばぬぬままままのの流りゆう行ぎやうのの隣となりぐぐららのの小こ到たう
 ららんんゆゆめめゆゆくくせせくく筆ふでをを急いそぐぐてて女むすめ兒ご様さま方かた小こ兒ご衆しゆう多おほくくのの中ちゆうへへ序しよらら
 志しをを敬うやまつ白しろととししとと示しりり

曲亭琴童誌

八代專士



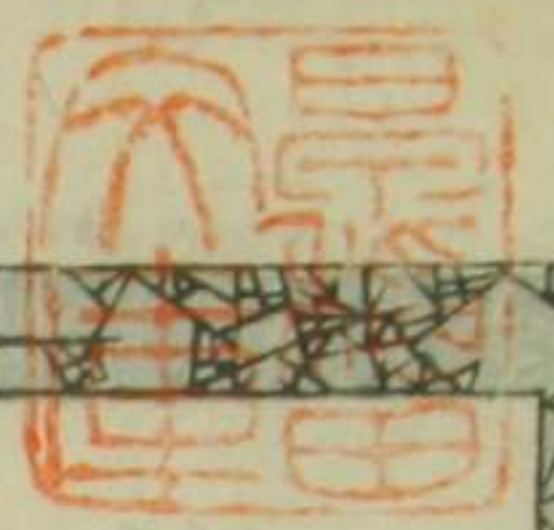
意馬
不狂
心猿靜

朝三暮四

惟憂邦

不空子題

河鯉えびのすけ権介のすけ
守如もりよし



湯鳴ゆなの神かみなほのつは
水みづ泡うなりなる思おも
君きみの女を見みん
友人
松風狂題

管領くわんりやう扇谷あふたに定正さだちか
内室うちむろ蟹目上かにめの上



るきぐらんせよねいさあり二丈半
をくらんせよねいさあり二丈半
をくらんせよねいさあり二丈半
をくらんせよねいさあり二丈半

守
物
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

つぎあつてきりかたては...
そのあひひとまじらるる...
あつてきりかたては...
あつてきりかたては...
あつてきりかたては...



伊丹 八犬傳
名酒
月雪は化ふるくとも酒
あざれば奥薄し百葉の長
天の美祿を
漢語を
共實小と
池田伊丹
名み地八華
浴の隣国を日本
一の酒造の名所又江戸小を花といひて小説の
八犬傳の八名酒を新ふ弘めんとし酒中の仙家
味ひあひては
詞のイハ升々是
とて工ハ
たる酒
の汲
者尽
び太
平の

たれかあつてきりかたては...
あつてきりかたては...
あつてきりかたては...
あつてきりかたては...
あつてきりかたては...



今昔無比の大流行今昔...
八犬傳の八名酒を新ふ弘めんとし酒中の仙家
味ひあひては
詞のイハ升々是
とて工ハ
たる酒
の汲
者尽
び太
平の
御代の恵れを
鼓此銘酒よハ
快美き酔を
得玉えッし

つぎに... かしら... とうとう... 父... どの... 家を...



この... ちや... 日...

この... 日...

琴童抄録 國芳圖画

東都書林 文溪堂 大傳馬町三丁目 丁子屋平兵衛

神方 屋げどね茶 一炮 二十箱

かんの茶 一包 二百箱 小包 八十箱

懷中 白粉 王艶紙 一帖 價半箱

玉艶紙... 懐中... 白粉... 王艶紙... 價半箱

下の巻へ



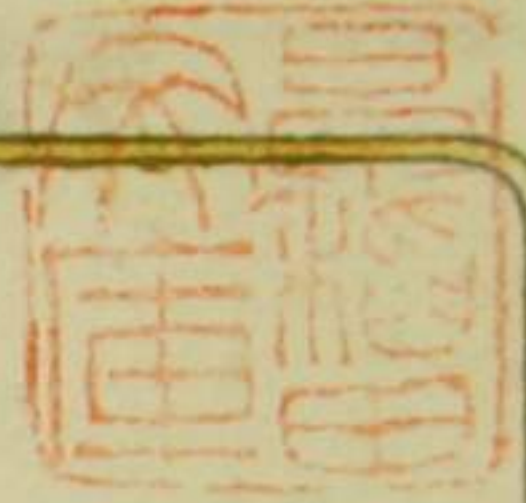
假名陸
八犬傳
第廿六編
文溪堂

曲亭子齊著
一勇齋國芳画



特別
~13
4271
50

下冊



か
 火傳
 二十七八人

此より其を著せり

一勇高

玉芳画



下冊



おのふ
 史ま
 上り
 かくそ
 ちあひま
 うめあひ
 不きるを
 ちうよ
 この身
 ねひ

上
 の
 巻

物

あねざりあて後日
 ちをまつたとあねせらる
 さてもまよらん不ゆいまやと
 りあふりゆきとらしそそ又
 のつゆりやちりふまわらて

かきつてあねせありなれ
 れつもの下木よりそまこ
 物四つをまよひぎちつらふの
 今るんぢかねかひの
 かりむき上るあゆまきあく
 かりゆめらつらつひを
 つつらて次ぎん太をまよふ
 べーあねちの次ぎん太が
 まるのうとまへ物四つ
 しまろふんそいあり
 がたあねえうとひれ
 この上りそれじつ

つきあふか... 片貝... 三の... 四の... 五の... 六の... 七の... 八の... 九の... 十の...



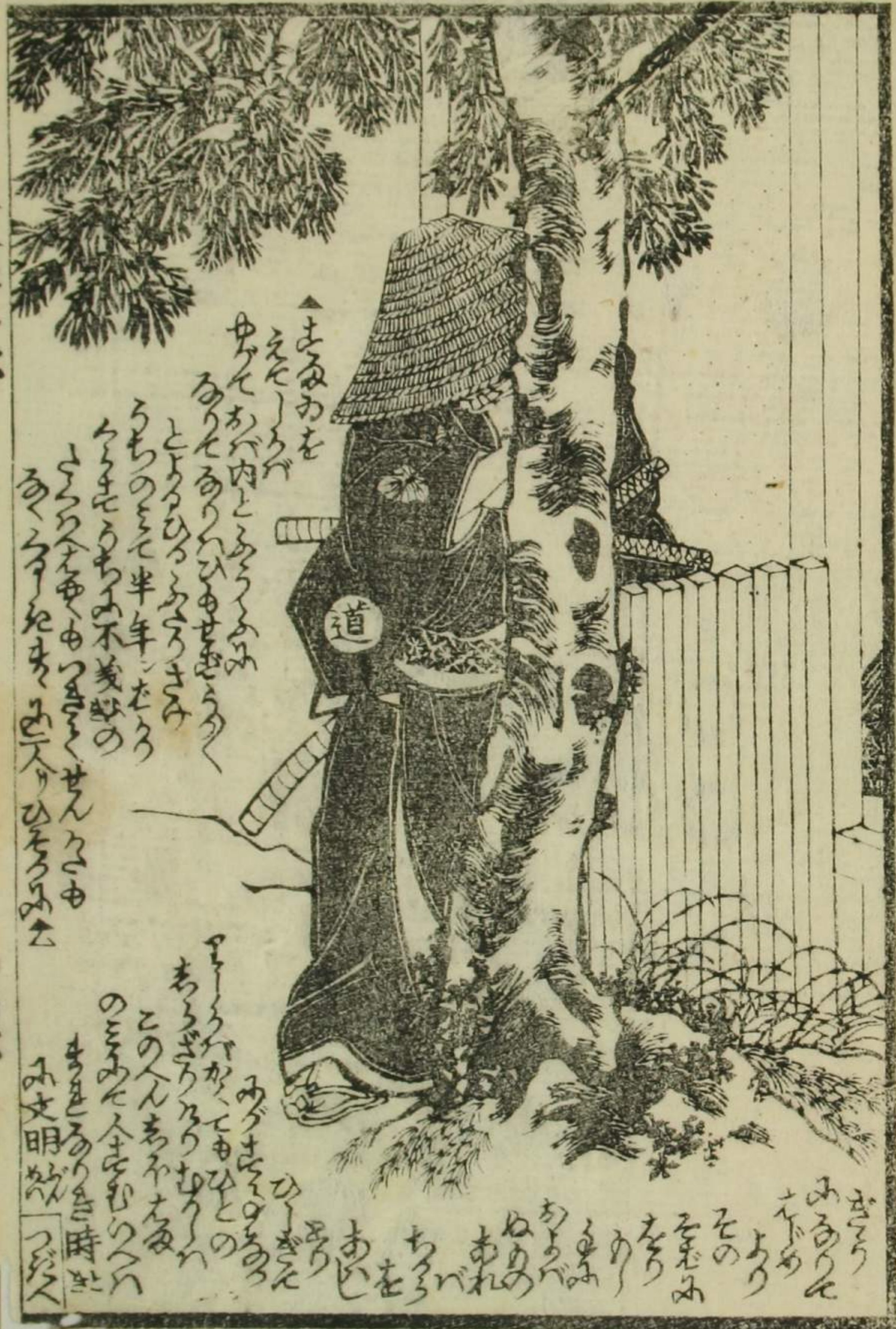
ま... せ... の... の... の... の... の... の... の... の... の... の...

太... び... の... の... の... の... の... の... の... の... の... の...

ち... の... の... の... の... の... の... の... の... の... の...



ま... の... の... の... の... の... の... の... の... の... の...



▲まゐりを
えんてうが
ちかてお内とふらうふみ
ありてありんひもせむらう
とよるひろふたうまみ
らちのそと半年たうら
んまたりちよ不美紙の
よらりたもゆつぎせんらこ由
あうらうたまひ入りひそらふた

▲さういふて
まて大あくドを
めくろをりう
よりてふまゆ
い京場みそつち
夜よらうとりの
この中まきま
あまひふりて
すちて夜よと
みちぬへふ
うらめい
まきをひく
まきちめを
あうらそ
ふとらふゆめ
あつをらうごふ
のたうらちびを
まてへくあ
をまきとら
まてへく
あまを
らまふ
まらうふ
あを内い



▲さういふて
まて大あくドを
めくろをりう
よりてふまゆ
い京場みそつち
夜よらうとりの
この中まきま
あまひふりて
すちて夜よと
みちぬへふ
うらめい
まきをひく
まきちめを
あうらそ
ふとらふゆめ
あつをらうごふ
のたうらちびを
まてへくあ
をまきとら
まてへく
あまを
らまふ
まらうふ
あを内い

▲さういふて
まて大あくドを
めくろをりう
よりてふまゆ
い京場みそつち
夜よらうとりの
この中まきま
あまひふりて
すちて夜よと
みちぬへふ
うらめい
まきをひく
まきちめを
あうらそ
ふとらふゆめ
あつをらうごふ
のたうらちびを
まてへくあ
をまきとら
まてへく
あまを
らまふ
まらうふ
あを内い

ついで
十五年
正月
廿日の工つとよ
あまのいけ
はこ入りあひご
よりのあまあまを



廿日正月
あまのいけ
はこ入りあひご
よりのあまあまを

あまのいけ
はこ入りあひご
よりのあまあまを
あまのいけ
はこ入りあひご
よりのあまあまを

あまのいけ
はこ入りあひご
よりのあまあまを



あまのいけ
はこ入りあひご
よりのあまあまを
あまのいけ
はこ入りあひご
よりのあまあまを





出板

このあはれ
 廿七
 文の
 の



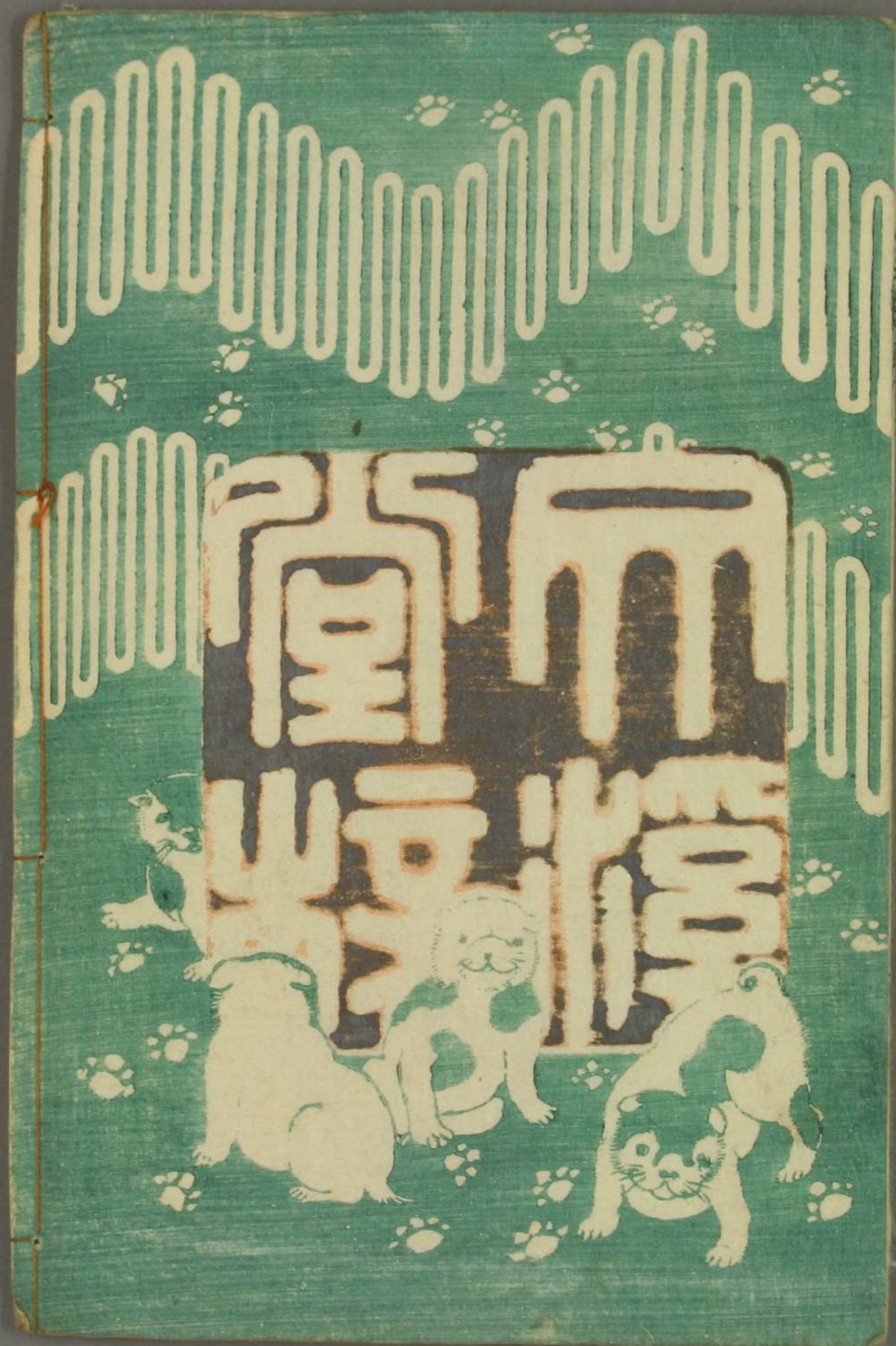
つぎ
 平
 のつぎとて
 まあしとら
 かみとらふ
 ろふひくろ
 ろうのつとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 平のつとら
 つかさどら
 てあつとら
 まあしとら

つかさどら
 まあしとら
 ろうのつとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 てあつとら

まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら

まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら

まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら
 まあしとら
 ろうのつとら





曲亭琴齋著

作名

共名

一勇齋園芳画

犬傳

文溪堂



第二十六編

